

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2013年2月16日）

弘前は、今年一番というくらいの大雪。除雪が済んでいなかったため、学内からピブスや茶話会の道具を出すだけでも一苦勞でした。道路状況がよくなかったこともあって、予定より5分ほど遅れて7時20分に出発。今日の参加者は、学生9名、市民13名、教員2名、合わせて24名です。高速道路を下りるまでは比較的順調でしたが、その後岩手県内に入ってから雪の影響で遅れだし、到着したのは予定より20分ほど遅れ10時50分でした。



吹雪の中、道の駅おりつめでの記念撮影

前日、野田村の天気予報を確認したところ、夜は雪が降るが朝から晴れるということだったので、現地に着けば活動は可能だろうと楽観的に考えていました。ところが…。思っていたよりもはるかに雪も風も強く、いつもの野田村とは違う風景が広がっていました。



吹雪の野田村

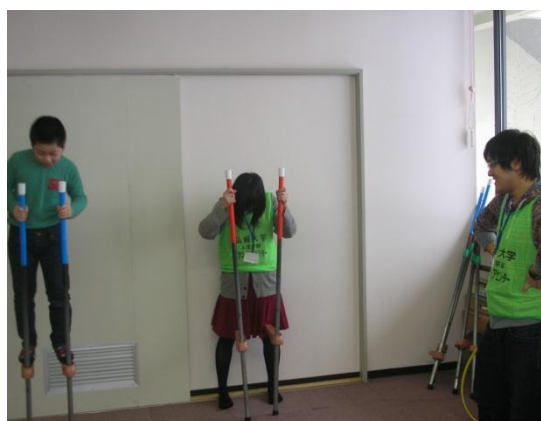
雪を気にしながら、今日の活動の準備に掛かります。今日は二手に分かれての活動になります。

学生は、野田村総合センターの児童クラブでの学習支援に参加しました。学生よりも一足早く私が児童クラブに挨拶に伺うと、小学生が部屋から飛び出してきた「あれ？いない」

「どこだ?」と学生を探していました。学生を待ちきれないという様子で外を見ている小学生の姿を見ると、徐々にこの活動も浸透しているなということを実感しました。活動が始まると、大学生が小学生に折り紙の折り方を教わったり、竹馬の乗り方を教わったり、本を読み聞かせてもらったり、忍者の修業をさせられたり…それぞれ思い思いの遊びを楽しんでいました。中には、ご家族が迎えに来て「帰らない」と言ってそのまま残ってしまう子もいたようです。お昼は、「かまどのつきや」さんの昼食をいただき、引き続き午後も活動を続けました。午前中は小学生が5~6人くらいでしたが、午後はもう少し人数が増えて賑やかな「学習支援」(?)活動でした。



小学生から折り紙を教わったり



一緒に竹馬に乗ったり (小学生の方が上手でした…)

学習支援に参加した学生からは、「学習支援に初めて参加したが、とても楽しかった。」「子どもたちが元気で疲れた。筋肉痛になりそう。」「子どもたちに接することで元気をもたらした。お互いに元気をもたらえる活動はいいなと思った。」などの感想が聞かれました。子どもに名前を憶えてもらって、また次回会う約束をした学生もいたようでした。このように次回へと繋がっていく活動が大事だなと感じました。次回も子どもたちは待っていてくれるのではないかと思います。



英語の勉強中



こちらは忍者の修行中(?)

一方、野田中学仮設集会所では、市民の方を中心に活動が行われました。今日は青森県立保健大学の皆さんと合同で活動を行います。内容は、保健大学の皆さんが行う栄養教室、交流茶話会、あんよセラピー、小学生対象の学習支援です。この他に、学生事務局が中心となって準備したバレンタインチョコの配布も行われました。

午前は、保健大学の学生さんと棒パンを作ったり燻製を作ったりの活動を行いました。活動を始めた当初は、野田の方は誰も集会所に現れず、保健大学と弘前市民の交流のようになっていましたが、お昼が近づくにつれて徐々に人数が増え、最終的には十数名の方が参加してくださいました。お昼は、保健大学の学生さんが中心になって作った棒パンや、チーズ、かまぼこ、はんぺんなどの燻製をいただきました。こんにゃくの燻製などもあったとのことです。お茶やコーヒーをそれぞれ飲みながら、出来てきた食事を頂くという感じで、茶話会の延長のような昼食会だったようです。



保健大学の学生さんに教わりながらの棒パン作り



ソーセージを作ったり燻製にする食材を準備したり

食事が終わって、午後になっても、それぞれ話をしたり、マッサージを受けたり、紙風船で遊んだり、音楽に合わせて体操をしたり…と、思い思いの形で交流活動を行いました。この日の仮設集会所は、笑い声が絶えず、終始和やかな雰囲気で行われました。



吹雪の中、棒パンを焼きます



みんなで音楽に合わせて体操中

仮設集会所での活動に参加した市民の皆さんは、「初めて参加したが、野田の皆さんが打ち解けていてビックリした。」「自分で作って、出来立てを食べるのは楽しかった。野田の皆さんが楽しそうにしてくれていたのがよかった。」「話が弾んでずっと話をしていた。本当に楽しかった。自分が楽しんだみたいだった。」「野田の皆さんの笑顔が見えたのはよかったが、心の中には重いものがあるように感じた。話をしていくうちに元気になってくれたので嬉しかった。」などの感想が聞かれました。

話は前後しますが、バレンタインチョコの配達は、市民参加の皆さんの協力をいただき、活動開始とともに、仮設住宅を一軒一軒回って行いました。とても喜んでいただけたようです。昨年もバレンタインチョコの配達をした学生によると、昨年と比べると受け取っていただく際の笑顔が多かったということでした。帰り道に、児童クラブにも寄って子どもたちにもバレンタインチョコを届けてきましたが、とても喜んでくれていました。

最後に、今回の活動を通じて感じたことを2つほど述べてまとめたいと思います。まず、学生についてです。帰りのバスの中での山口恵子先生が、「隣の男子学生2人が行きと帰りでまったく違う。教師が学生にできることは少ないけど、子どもできることはこんなにもあるんだ。」と感想を述べられていました。弘前市民の皆さんとの協働作業、野田の皆さんとの交流を通じて学生が得られるものは数多くあります。学生の皆さんには、大学内という狭い範囲に止まっていなくて、広く社会にも目を向けて欲しいなと思いました。とくにあと1か月ほどで、これまで学生事務局を2年間引っ張ってきてくれた中心メンバー3人が卒業します。この活動を続けていくためには学生事務局の力は不可欠ですので、是非学生の皆さんには積極的な参加をお願いしたいと思います。

もう1つは、今後の活動についてです。私自身は7か月ぶりに野田村に行きました。先ほどの参加者の感想にもありましたように、とにかく今回は笑顔が多い活動で、大分野田の皆さんも回復しつつあるのかなと感じました。しかし、同じく参加者の感想にあるように「心の中の重いもの」はまだ完全には取り除かれていないのです。また、ある参加者の方は、「チョコレートを配りに行って声を掛けたら、お隣の方が出てきた。それだけ壁が薄いのかなと思った。足音1つも気にしなければならぬのは相当のストレスではないか。」と感想を述べられていました。まだまだ物心両面で自由な生活を取り戻すには時間が掛かりそうです。来月で震災から2年が経ちますが、この活動はこれからも続けて行かなければならないなと強く感じました。

(担当 平野潔)